

教育研究所だより

No.231 令和4年10月17日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyl_index.html

令和4年度 夏期研修講座 ご参加ありがとうございました

授業改善研修講座



講座① 8月4日(木)

授業づくりは学級づくりから!
市内の先生から学ぶ学級経営の考え方

講師

守山小学校 大崎 章博 教諭
守山南中学校 脇 友美 教諭

★参加人数 32名



受講者の感想(一部抜粋)

○学級づくりは、教師だけでなく子どもと一緒につくっていくものであり、日々、学級目標を意識し、振り返り、次に生かしていくことの大切さを改めて感じました。
○今の子どもたちの状況(心理的特徴)や色々な子どもに寄り添うための心得などを教えてくださいました。大人も子どもも、もっと力を抜いてつながることが大切なのではないかと気づくことができました。

講座② 8月5日(金)

主体的・対話的で深い学びにつながる
算数科の授業づくり

講師

滋賀短期大学
久米 央也 教授

★参加人数 25名



○「子どもの心が動く」その重要性を強く感じました。忙しい毎日のあまり、ついつい、一日をどう過ごすのかという段取りに目がいきがちになってしまっていますが、「子どもの心が動く」単元計画を事前に準備していきたいと思いました。
○いい授業には、いい教材が必要ですが、その使い方が本当に大切だと思いました。授業の流れや思考の流れを整理して授業準備を心がけていきたいです。

講座③ 8月9日(火)

道徳科における授業づくりの視点

講師

滋賀県総合教育センター
中西 宏美 研修指導主事

★参加人数 23名



○道徳の授業でのメリハリの付け方が分かりました。最初にあらすじを伝えてからお話に入ることや、ネームプレートを使って板書することを実践してみたいと思いました。また、中心発問から授業を考えるということも意識していきたいと思いました。
○道徳の授業は、ルールやマナーを教える授業ではなく道徳性を養うための授業だということを改めて考えることができました。

講座④ 8月25(木)

読み解く力の視点に基づく授業づくり

講師

滋賀県総合教育センター
鎌倉 隆行 研修指導主事

★参加人数 14名





○自分の取組の成果と課題について分析・整理したことで、どの手立てが読み解く力のどの部分につながっているのかを発見することができました。2学期の課題に対して手立てを講じ、読み解く力の向上を目指したいです。
○子どもに必要な力は何なのかをしっかりと精査し、見通しをもった授業づくりを心がけたいと思いました。

特別支援・教育相談研修講座


※講座③・講座⑤については、研修当日の動画を守山市内教職員を対象に期間限定(10月5日～12月31日)で配信しています。ぜひご覧ください!!

<p>講座① 8月2日(火) 子どもたちの心の理解と教育相談支援 ～子どもたちの心身の声に耳を傾ける～</p> <p>講師 滋賀大学 芦谷 道子 教授</p> <p>★参加人数 36名</p> 	<p>○子どもと向き合うなかで、話に耳を傾け、思いを受け止めることの大切さは十分に感じていますが、つい、自分の思いを伝えてしまうことが多いです。“その人の目を借りて世界を見ること”が、理解の始まりだと思いました。</p> <p>○子どもの心の問題が思っているより深刻化していることを知りました。子どもたちが安心・安全に育っていくために、どんなことができるか考えていきたいと思いました。</p>
<p>講座② 8月3日(水) 学校連携から見た子どもの育ち</p> <p>講師 守山中学校 奥田 明美 教諭</p> <p>★参加人数 14名</p> 	<p>○連携の大切さを改めて感じました。一人の子どもについて考える時、複数の目が大切だと思います。学校でも組織化して子どもたちを見ていきたいです。通級の先生ともっと話していきたいです。</p> <p>○通級指導教室につなぐことによって、支援の方法、目標など、たくさんのことを教えていただけることをもっと周知していく必要があると思いました。</p>
<p>講座③ 8月4日(木) 自尊感情をどう理解し育むか ～共有体験の大切さ～</p> <p>講師 日本ウェルネススポーツ大学 近藤 卓 教授</p> <p>★参加人数 47名 (※動画配信有)</p> 	<p>○ユーモアあふれるお話や素敵な歌声に、心が穏やかになりました。自尊感情の4つのタイプのお話からは、今関わっている子どもへの支援のヒントをいただきました。</p> <p>○基本的自尊感情と社会的自尊感情があることを知りました。子どもたちの共有体験を大切にしたい学級作りを心掛け、土台をしっかりと作っていききたいと思います。</p> <p>○子どもと一緒に遊び、体験し、学ぶことがどれだけ大切かを学びました。子どもとより多く向き合っていきたいです。</p>
<p>講座④ 8月17日(水) 生徒指導上の諸課題と いじめ対応について</p> <p>講師 滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課 生徒指導・いじめ対策支援室 田中 哲郎 指導主事</p> <p>★参加人数 12名</p> 	<p>○いじめは未然防止が重要であると再認識することができました。もし、いじめが起こってしまった際には、組織的な対応、子どもの心のケア、保護者への連絡・連携などを心掛けたいです。</p> <p>○色々なケースをもとに、しっかりと考えを深めることができました。対応に追われるのではなく、今、何を最優先すべきかを把握して一つずつ取り組んでいきたいです。</p>
<p>講座⑤ 8月18日(木) 子どもの理解と家族支援 ～アセスメントとプランニング～</p> <p>講師 滋賀県 SSW SV 社会福祉士 上村 文子 SSW</p> <p>★参加人数 54名 (※動画配信有)</p> 	<p>○子どもは「頼りたいこと」「困っていること」を言葉ではなく、態度で示しているのだと感じました。保護者の方も日々悩んでおられることがあると思うので、まず話をきき、一緒に考え、子どもの成長を見守っていききたいです。</p> <p>○子どもの問題行動の背景や保護者とのつながり方を知りました。子どもを認める優しい声かけやチームで支援していくためのアセスメントとプランニングが大切だと改めて感じました。</p>
<p>講座⑥ 8月26日(金) 【ゲートキーパー研修】 悩みのある方への関わり方を知ろう</p> <p>講師 すこやか生活課 大朝 萌 主任保健師</p> <p>★参加人数 7名</p> 	<p>○自殺に至る子どもの背景、脳への影響、行動の現れ方などがわかりました。話をきくときは、考えを否定したり、安易にアドバイスをしたりせず、傾聴することを心掛けたいと思いました。</p> <p>○「ゲートキーパー」という言葉を初めて聞きました。子どもたちの小さなサイン、置かれている状況、言葉や行動の背景にも思いをめぐらせながら、日々対応していきたいと改めて感じました。</p>

ICT・プログラミング研修講座

<p>講座① 7月27日(水)</p> <p>わかる! できる! 情報モラル</p> <p>講師</p> <p>滋賀県総合教育センター 西塚 洋 研修指導主事</p> <p>★参加人数 10名</p> 	<p>○情報モラルと聞くと、「〇〇はだめ」とか「〇〇に注意しよう」という、禁止するような発想になってしまいますが、「こう使ってこう」という伝え方に変えていく必要があることがわかりました。</p> <p>○情報モラル教育では、ネットのトラブル事例を提示するだけでなく、子どもたちが、ネットの問題を「自分のこと」として自覚し、どのように対応すればよいかを考え続けられるような指導を行うことが大切だとわかりました。</p>
<p>講座② 7月27日(水)</p> <p>小学校プログラミング教育</p> <p>講師</p> <p>滋賀県総合教育センター 西塚 洋 研修指導主事</p> <p>★参加人数 8名</p> 	<p>○プログラミングは、分かりにくくて取り掛かるのが億劫になっていましたが、今日の体験で、「できそう」と思えたので、チャレンジしてみたいです。</p> <p>○「何をどうしたらその結果にたどりつくのか」や逆に「その結果にたどりつくためにはどうすればよいのか」を考える力をつけていくために、とてもいい学習になると思いました。</p>

幼児教育研修講座

<p>講座① 8月23日(火)</p> <p>子どもの育ちに学ぶ ゼロ・1・2歳児の発達と保育</p> <p>講師</p> <p>滋賀大学 安井 恵子 講師</p> <p>★参加人数 18名</p> 	<p>○乳児期では、子どもとの愛着関係が大切だと改めて感じました。0歳からの関わりが、幼児期、小学生、中学生へとつながっているの、乳児期の時に、達成感や安心感などの根っこの部分を育てる関わりをしていきたいです。</p> <p>○乳児期の子どもの発達や関わりを学ぶことができ、改めて自分の保育を見直すきっかけになりました。子どもたちが安心して過ごせるよう、一人ひとりに丁寧に寄り添っていききたいと思います。</p>
---	--

小中学校外国語教育研修講座

<p>期間7月26日(火)~8月26日(金)</p> <p>守山市オンデマンド教員研修 ~teachers cloud~</p> <p>講師</p> <p>インタラック ALT トレーナー</p> <p>☆受講人数 15名</p>	<p>○たくさんの資料や動画があり、知りたいことを自分のペースで学ぶことができました。広く学ぶことができる豊富な資料は、魅力的です。また、2学期からの教材研究がやりやすくなりました。</p> <p>○表現を身につけさせるためには、担任とALTで会話をして見せたり、何度も挑戦させたりすることが大切だと思いました。</p>
---	--

提出いただいたアンケートをもとにして、今後も教育の今日的課題にこたえられるような研修講座を計画して参ります。



「聴く」ということはとても難しいことです。今回は子どもの心の声を聴くことについてのお話を紹介したいと思います。自分も相手も大切にするかわりに必要なことを考え、皆さんの近くにいるお子さんたちの心の声に寄り添うヒントにさせていただけると嬉しいです。

感情の後ろにある願い



「心の声を聴くということは、相手の感情を表情や行動から読み取り、言葉にすることを手伝うこと」

子どもの行動の後ろには、その子の感情があります。感情は、信頼できる人に自分の願いを届ける役割をもっています。つまり、子どもの行動の後ろにあるその子の願いを探す必要があるのだと考えています。

受け取り難い行動や感情をもらうことがあります。その子を守るためには、「ダメなものはダメ」「やるべきことはやる」と、行動を容認しないことは大切です。しかし、その前に、その子の感情をしっかりと受容することが必要です。この順番を間違えると、「わかってくれない!」となってしまいます。

怒りの感情の後ろには「変われ」という願いが、悲しみの感情の背後には「助けて」、喜びの感情には「増やして」、つらい・苦しいという感情には「取り除いて」という願いがあるとされています。「怒ったり泣いたりしている子どもの後ろにある願いは何かな。」と考えながらかかわると、今までよりも一緒にいられる時間が長くなり、その子の心の声を聴けるようになってきたようです。〔中略〕

これからも、子どもの心の声を聴くことができるように、行動や感情の後ろにある願いを受け取れるように、想像力を身につけて子どもに寄り添っていきたいと思います。

(2022年4月号 月刊学校教育相談 「子どもの心の声を聴きたい」 副島 賢和 より一部抜粋)

郷土守山に学ぶ研修講座Ⅱ 9月29日(木)開催

ふるさと再発見 美術の見方 ～平山郁夫の日本画～



今回は、佐川美術館さんにお邪魔しました。

学芸員の方から“日本画家・平山郁夫作品”をよりよく楽しむためのエッセンスを

交えながら、作品を解説していただきました。平山先生の作品に込められた「平和」への願いや、「平山ブルー」と呼ばれるその色合いの意味など、大変興味深い説明をいただきました。その後は、解説を思い出しながら館内の作品を鑑賞しました。

<参加者の感想から>

学芸員の方が、丁寧に説明してくださり、作品を見るときもただ「見る」のではなく、「観る」ことができました。また、その中で生じた質問にもお答えいただき、大変良かったです。知らなかった世界に触れることができました。ありがとうございました。

